

株式会社 ヘルシーネット¹

1. 起業家の背景

10 ——— 社長の後藤玄利（ごとう・げんり）は、1967年大分県に生まれる。実家は80年の歴史を持つ地場の老舗製薬会社の創業家。東京大学を卒業後、アンダーセンコンサルティング（現：アクセンチュア）に入社。1994年に同社を退社し、実家のうすき製薬（株）に取締役として入社。半年後に健康食品販売の関連会社の株式会社『ヘルシーネット』を設立する。———

後藤の実家である「うすき製薬」は大正9年（1920年）、大分県臼杵（うすき）市に創業の地を構える。資本金1千万円、年商5億円、従業員数42名の製薬会社である。先々代の内科医後藤前（すすむ）が後藤薬院を開設、家庭用常備薬「後藤散（痛み止め）」の製造販売を始めたことに発祥する。この「後藤散」は九州地区では有名で、現在も地元の人々に愛され地域ブランドを築いている。

20 幼少の頃の後藤は、一言でいうと“人と違ったことをやるのが好きな子供”であった。例えば、友達と競争のためひと冬じゅう半そで半ズボンで過ごしたこともある。製薬会社の長男として生まれたが、両親に跡を継げとも言われなかった。しかし、実家と会社が同じ敷地内に同居するといった環境の中で育ち、「いつか自分も何かするんだろうな」と漠然とした思いを胸にいだいていた。

30 1985年に上京し、東京大学に入学。専攻は基礎科学科（バイオテクノロジー）。生物はもともと好きだったことと、実家の製薬会社でバイオテクノロジーの研究施設を作っていた関係もあり、「どんな感じかな？」と興味があったからだ。家業を継ぐことも視野に入れつつ選んだ学部だったがあまり面白みが感じられず、むしろアメフト同好会の活動に熱中していた。

1989年、就職の時期を迎えたが、世の中はバブル絶頂期。大学では成績の良い順に、官

¹ 本ケースは、ケンコーコム株式会社の協力を得て、中小機構経営支援情報センター紅林弘道研究員が、株式会社ヘッドクォーター山内英二郎代表取締役、アイズコンサルティング岩岡博徳代表両名の指導の下で執筆を担当し、さらに上記メンバーに中小機構経営支援情報センター鈴木直志ディレクターが加わった開発チームの下で作成されたものである。また、クラス討議の資料として作成されたものであり、特定の経営管理に関する適切又は不適切な例示をすることを意図したものではない。本ケースの著作権は、独立行政法人中小企業基盤整備機構に帰属する。（2006年3月作成）